浜松市立光明小学校　学校だより　　令和６年 10月10日

試すっ子

学校教育目標「試す人になろう」　No.17

「やる気」を育てる

校長　中野　主税

１０月に入って、秋雨で肌寒く感じる日も多くなってきました。先週は、６年生が８部会陸上大会に参加しました。途中から雨が降ってしまい、残りの種目については各学校で行うことになりました。今年度が最後の大会だったので、最後まで競技をさせたかったです。６年生は、練習も含めて最後まで全力で取り組むことができました。練習参加を希望した他学年の子供たちも最後まで一生懸命に活動し、真剣に取り組む姿が見られました。

今日は、子供の「やる気」を育てることについて考えてみたいと思います。

母　「見せて。決まってるでしょ。昨日の算数のテスト返してもらったんでしょ！」
子　「・・・・・・・・・」
母　「９０点か。惜しかったね。Ｔ君は？」
子　「知らん。」
母　「また負けたんだね。」
子　「１０点負けただけだよ。」
母　「１０点！　それじゃ、１００点満点じゃないの！本当にあの子はすごいわ。あんたもＴ君に負けないようにがんばらなきゃいけないよ。」
子　「分かってるって！」

学校から帰ってきたばかりの子供と母親の会話です。ごくありふれた会話ですが、気になりませんか？もっとも信頼している親の言葉だけに、よけいに気になります。「あの子よりも成績がよい、悪い」という考え方で親が子供に接していると、親子関係にひびが入ります。さらに、見下して優越感をもったり、逆に劣等感を抱いたりするような心のゆがんだ子供になりかねません。

子供は、学校で吸収した宝物を、ランドセルいっぱい、胸いっぱいに詰め込んで、親の待つ温かい家庭に飛んで帰ってくるのです。「そんなことはない。」と思われるかもしれませんが、本当なのです。子どもは、どの子も、素直で「やる気」をもっています。それなのに、親の一言が、子供のいざという時の「やる気」の欠如につながっていってしまうことがあります。

子供の成長は、赤ちゃんの頃のようにはよく見えないように感じますが、見えにくくなってきただけで、日々成長しているのです。それが見えないのは、親としての感性が鈍ってきているからかもしれません。

「あの子に負けないようにがんばりなさい。」では、本当にがんばろうという「やる気」はわいてきません。子どもの小さな努力やささやかな進歩を十分に認め、評価するように努めることが大切ではないでしょうか。学校でも、全教職員で子供たちの「やる気」につながる言葉かけをしていきたいと思います。